

『枕草子』で群読を行う

『枕草子』「春はあけぼの」を群読の導入教材として位置づける

『徒然草』を使った朗読の学習をもとに、以下の流れで『枕草子』の学習を進めました。

(1) 音読練習の工夫

途中で止めて若干の説明を加えながら、まず授業者が範読します。その後、各自が自分のペースで音読の練習をします。次に全員で斉読を行います。『徒然草』でも同じように行いましたが、今回はグループ群読につなげるために、教科書を持って声を黒板にぶつけるようにして、大きな声を出すよう指示をしました。また、学級を2つに分けて、一文ずつ交互に読ませることで、群読へとつながるようにしました。

(2) 作者と時代と文種

『徒然草』と同じ随筆であることから、『徒然草』との比較という観点から、作者と成立時代について学習していきました。男女の作者の違い、平安と鎌倉の違い、さらには紫式部との比較を通して清少納言について学習していきました。

(3) 作品の内容理解

内容理解が伴わなければ朗読も群読もできません。そこで、いかに内容を理解していくかが重要となります。教科書の脚注や資料集を見ながら、学習プリントに読み方や意味を書き込んでいく形で内容理解を進めました。「をかし」や「あはれ」などの重要古語については、学習プリントにその解説を載せて理解しやすいように工夫しました。

また、この作品のすばらしさを外国人に紹介するとしたら、どんな点を強調するかについて書く欄を設けることで、内容理解の度合いを見るようにしました。強調する点はグループ群読へとつなげるようにします。さらには、補充問題により、理解した内容の定着を図りました。

(4) 絵画による情景把握

「春はあけぼの」には四季の情景が描かれています。これを、簡単な絵で表現することで作品の内容を理解し、それぞれの情景を思い浮かべることができたかを判断する手だての一つとしました。内容を理解し、情景が浮かばなければ絵にすることはできません。

自己評価カードも活用し、作者の言っていることがわかったか、情景を思い浮かべることができたか、それぞれについて確認できるようにしました。確かな内容理解が、グループ群読につながり、群読を支えるものになると考えました。

個人台本からグループ台本へ

(1) 群読個人台本の作成

今までの読み取りをもとに、各自がどのように「春はあけぼの」を群読したいのか、ワークシートに記号や言葉を書き込む形で個人台本を作成しました。この個人台本がしっかりできていないと、グループでの話し合いがうまくいかないと考えました。

(2) 群読グループ台本の作成

グループは、『徒然草』のときと同様に、修学旅行の班を使いました。話し合いには3人から4人が適しています。今回は、6人から7人のグループのため、話し合いに参加できない生徒が出てくるのが予想されます。そこで、その解決策として、机を円形に並べて活動させました。こうすることで、互いの距離が均等になり、顔を見合わせるができます。

各自の個人台本をもとに話し合い、グループ台本を作っていくようにしました。その際、実際に声を出して群読し、修正を加えながら仕上げていくようにしました。